

11. 自分ひとりでは大変ですね

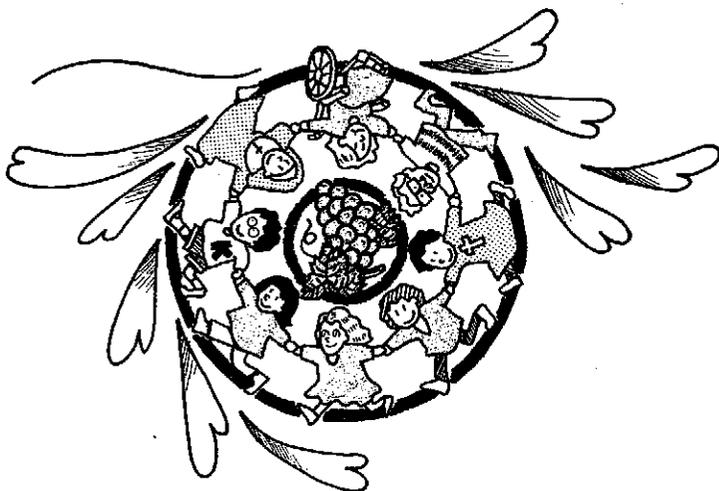
みんなで担う信徒奉仕職

私たちの信仰は、共同体によっては、共同体に同時に共同体を支えることによって成長していきます。信仰に基づいて集まる共同体にはさまざまな人が集い、一人ひとりに独自の固有の賜物が与えられています。それぞれ異なった固有の賜物は貴重であり、そのユニークさによって、多様性の豊かさが生まれてきます。私たちが信仰に基づいて奉仕を担うとき、信仰共同体とのきずなは大きな助けであり強い力となります。

グループとして何かの奉仕に携わるとき、その奉仕はより豊かなものとなっていきます。グループはそのメンバーによって支えられ、同時にメンバーを支えます。またグループは、属する教会共同体全体を支えると同時に、全体から支えを得ることができます。

教会共同体(地区、小教会など)、グループ、個人のいずれにとっても、奉仕についての識別は大切です。どのような奉仕が必要とされているのか、どのような固有の賜物が与えられ、どのような奉仕がさわしいのか、また、実際に行った奉仕が適切なものであるのかどうか、その奉仕をどのように発展させていくことができるのかなど、節目節目で判断が必要になります。そのような時、共同体との関わりによって、励ましや支え、時には忠告を得て、より適切な判断が可能となるでしょう。信仰に基づく奉仕は、共同体との交わりの中で行うことが大切です。

とくに教会の職務として担う「奉仕職」の場合、教会共同体からの支えや承認の、目に見えらるしるしとして、教会員(司教、司祭など)からの任命という形を取ることが一般的です。そのため、信徒奉仕職は「任命による奉仕職」とも呼ばれるのです。どのような奉仕職に対してどのような形の任命がさわしいのか、については検討の余地があります。共同体との交わりは不可欠です。



◇分かち合いのフー・ワ◇

*あなたが関わってきたさまざまな活動において、教会全体や共に働く人たちに助けられた体験として、どのようなことがありますか？

*教会での役割の分担はどのように行われていますか？ あなたの関わっている場の実情を振り返ってみましょう。

*その中で何らかの「任命」という形をとっているものはありますか？ 任命の必要性や問題点について気づいたことを分かち合ってみましょう。